

腰痛治療法の選択 全身の状態で判断

Q 五十歳、男性、高校教師。学生時代乗馬クラブで落馬し、腰椎（ようつい）骨折で入院しました。以来、腰痛が持病になりました。授業中立ち続けるため、約一〇年前から次第に痛みが増しています。現在整形外科とペインクリニックで治療していますが、漢方により薬はありますか。

身長・体重・体格・体形、胃腸の具合などの全身状態と、どのような場合にその症状が発現・悪化するかという個別の事情である。

質問者は「腰を冷やした時、天気の良い時、酒を飲みすぎた時、起床時と夕方疲れがたまつた時」に痛みが増すという。こうした情報があると処方方が絞り込める。すなわち「体を温め、新陳代謝を高め、抗疲労作用を有する鎮痛薬」を選ぶことになる。

A 質問者は手紙の中で、どのような時に腰痛がひどくなるかを書いている。漢方治療を希望したり薬局で漢方相談をしたりする場合、このような情報が適切な処方を決めるうえで大変重要なであることを知っておいていただきたい。

というのも、漢方では症状を全身の中の部分の異常ととらえるから、治療の指針となるのは、

やせ型で胃腸が丈夫ではなく、体調が悪いと古傷が痛むタイプには、桂枝加苓朮附湯（けいしかりようじゆつぷとう）という漢方薬がとてもよく効く。もし胃腸が丈夫なら八味地黄丸（はちみじおうがん）や疎経活血湯（そけいかつけつとう）などを最初にお勧めする。